図説 地球上の核弾頭全データ

2010年7月

【解説】

従来、どの核兵器保有国も、自国の核弾頭数やその内訳を公表してこなかった。

フランス政府は2008年3月21日に核弾頭の総数を300以下に減らせる予定と発表した。それ以後の発表がないが、これが公的発表の核弾頭数と考えられている。2010NPT再検討会議に臨んで、5月3日、米政府は全備蓄核弾頭数を5113発と公表するとともに、その数の年毎の変遷も公表した。それを追うように、5月26日、イギリス政府は議会に対して備蓄核弾頭は将来225発を超えず、作戦に供する核弾頭数は160発以下であると発表した。このように弾頭総数について一定の公的情報が出始めたことは歓迎すべきことである。

しかし一方で、核弾頭の種別毎の数の公表、公表の定期性など、まだまだ情報の透明性は極めて低い状態にある。

5月3日の米国防総省ファクトシートは、02年NPRと同様、弾頭の保管状況を**「活性状態」**と**「不活性状態」**に大別している。前者はそのまま使用できる弾頭であり、後者は時間が経過すると劣化するトリチウムや電池などを除いて貯蔵している弾頭である。この点も含めて、本誌で行ってきた弾頭の分類方法に大きな変更の必要はなく、以下のような従来の方法を踏襲する。

①作戦配備の弾頭　部隊に配備・貯蔵されている活性状態の弾頭。(新STARTと同じくオーバーホール中の原潜の核弾頭を作戦配備に含めない。)

②兵站予備の弾頭　ルーチン整備・検査のために確保されている活性状態にあるスペアである。米国の戦略核兵器については推定するための一定の情報がある。概ね①の5～10%である。ロシアもその比率で推定した。

③予備貯蔵の弾頭　活性、不活性を含め、再使用の可能性を想定して貯蔵しているもの。迅速対応戦力もこれに含めた。**迅速対応戦力**とは、作戦配備から外した核弾頭の中でも情勢の変化によって復活させることを前提として活性状態で貯蔵するもので、ブッシュ政権の新しい戦略の3本柱によって導入された。オーバーホール中の原潜の弾頭もこれに含めた。

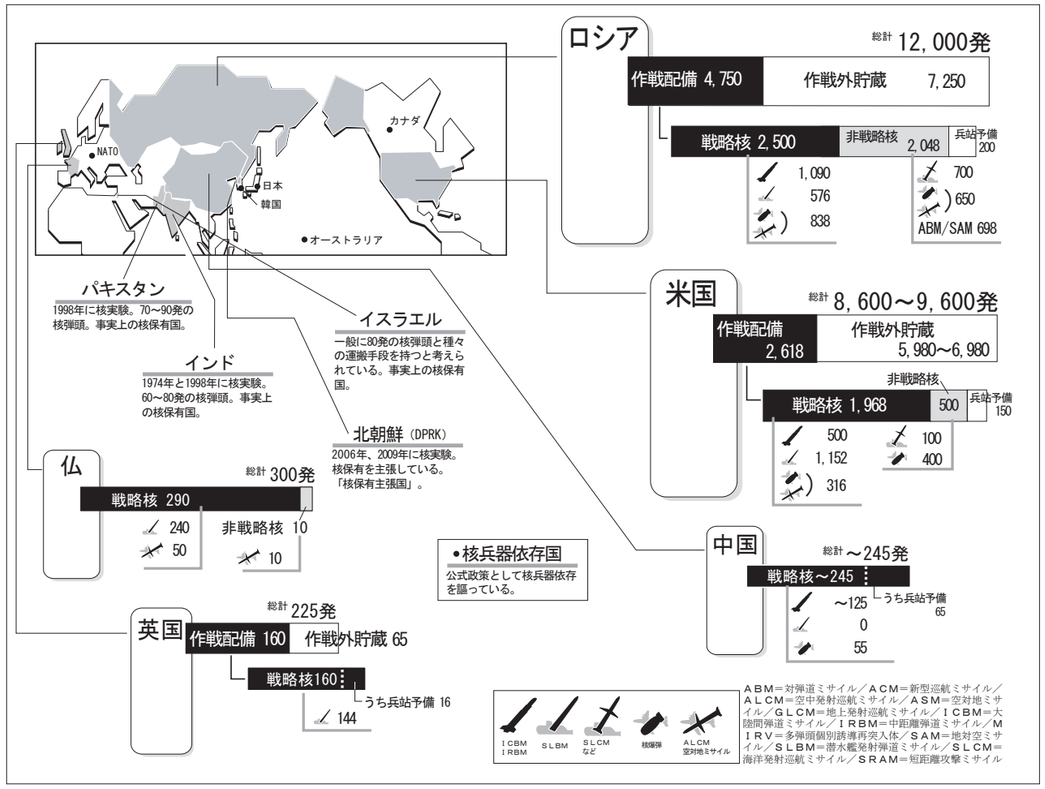
④退役弾頭　運搬手段から外され解体を前提に保管されている核弾頭。

以下のデータは、非政府組織(NGO)が長年にわたって継続的に収集、分析することによって得られたものである。以下の図表の作成においては、③と④を合わせて**「作戦外貯蔵」**とする。5月3日に米国が発表した5113発というのは、NGO推定では作戦配備(①＋②)2618発に予備貯蔵(③)2450発を加えた数に相当し、5068発となる。NGOの推定精度がいかに高いかが立証された。

米国では、他に、弾頭の形ではなくて、一次爆発用プルトニウム・ピット14000発と二次爆発部分5000発を分離して貯蔵しているとされる。

北朝鮮(DPRK)は2009年5月25日に2度目の核実験を行い、核保有国であると主張しているが、弾頭化／兵器化に関しては情報がない。本図説では従来通り「核保有主張国」と位置づけた。

事実上の核兵器保有国と見なされるインド、パキスタン、イスラエルを含めると、地球上には今なお21600～22600 発に及ぶ核弾頭があり、オーバーキル状態は変わらない。



米国（計 8,600～9,600）

核兵器の名称	爆発力 キロトン	核弾頭数
戦略核（小計 1,968）		
●ICBM（小計500）		
ミニットマンⅢ		500
Mk-12 型（弾頭:W62）	170	0[1]
Mk-12A 型（弾頭:W78）	335	300[2]
Mk-21 型（弾頭:W87）	300	200[3]
●SLBM[4]（小計1,152）		
トライデントⅡ　D5		1,152[5]
Mk-4 型（弾頭:W76）	100	568
Mk-4A 型（弾頭:W76-1)	100	200[6]
Mk-5 型（弾頭:W88）	455	384
●爆撃機搭載核兵器[7]（小計316）		
核爆弾　B61-7	可変<1～360	100
B61-11[8]	5	
B83	可変<1,200	
ALCM（弾頭:W80-1)[9]	5～150	216
非戦略核（小計 500）		
●SLCM		
トマホーク(弾頭:W80-0)	5～150	100[10]
●核爆弾 B61-3,4,10	0.3～170	400[11]
兵站予備（小計 150[12]）		
作戦外貯蔵（小計 5,980～6,980[13]）		

1　2009年10月1日までに退役は未完了。
2　1～3MIRV×250基。
3　単弾頭が200基。W62を置きかえている。
4　オハイオ級戦略原潜12隻に搭載。ミサイル数は288基(12×24)。原潜数は14隻であるが、常時2隻はオーバーホール。
5　12隻×24発射管×4MIRV。
6　W76-1は2008年10月末から配備が始まった。
7　ストラトフォートレスB-52H(93機のうちの44機)、スピリットB-2A（20機のうちの16機)、計60機が任務(核・非核両用)についている。B-2Aは爆弾のみ。警戒態勢は低い。
8　地中貫通型(1997年11月に導入)。貫通は6m。B-2Aにのみ搭載。
9　B52Hのみ。
10　ワシントン州バンゴーに予備を含めて集約して貯蔵。
11　迅速対応戦力も含めて200個がNATO軍用としてヨーロッパ5か国の6か所の空軍基地に配備(別表参照)。その他に米国内では、ファイティング・ファルコンF16C/D、およびストライク・イーグルF15Eに搭載。
12　戦略核の7.5%として推定。
13　予備貯蔵2450発、退役弾頭3500～4500発からなる。トマホーク(190発)、B61(-3,4,10)(510～610発)、オーバーホール中の2隻のオハイオ級原潜のトライデント弾頭(48発)などは予備貯蔵。

ロシア（計 12,000）

核兵器の名称	爆発力 キロトン	核弾頭数
戦略核（小計 2,500）		
●ICBM（小計1,090）		
SS-18　M4、M5、M6（サタン）	500～800	500[1]
SS-19　M3（スチレトウ）	400	360[2]
SS-25（シックル)(トーポリ）	800	150[3]
SS-27（トーポリM）	800	50[4]
SS-27A（トーポリM1）	800	18[5]
SS-27B（トーポリM RS-24 型）	400	12[6]
●SLBM（小計576)[7]		
SS-N-18　M1（スチングレイ）	50	192[8]
SS-N-23（スキフ）	100	128[9]
SS-N-23M1（シネバ）	100	256[10]
SS-N-32（ブラバ）	100	0[11]
●爆撃機搭載核兵器（小計838）		
核爆弾		
ALCM（弾頭:AS15A、B）	250	838[12]
SRAM（弾頭:AS16）		
非戦略核（小計 2,048）		
●ABM/SAM（小計698）		
53T6（ガゼル）	1000/10	68[13]
SA-10（グランブル）	low	630
SA-12（グロウラー）		
●空軍航空機（小計650）		
核爆弾/ASM AS-4（キッチン) /SRAM AS-16	1000	650[14]
●海軍用戦術核（小計700）		
核爆弾		
ASM　AS-4（キッチン）	1000	700
SLCM	200～500	
対潜核兵器		
SAM		
核魚雷、核爆雷		
兵站予備（小計 200）		
作戦外貯蔵（小計 7,250）		

1　10MIRV×50基。STARTⅡが無効になり保持。しかし削減が続く。液体燃料。
2　6MIRV×60基。削減する計画。液体燃料。
3　単弾頭。ロシア名トーポリ。道路移動型で固体燃料。2009年に2回の発射テスト(4月20日、12月10日)。
4　単弾頭。ロシア名トーポリM。サイロ型。軌道を変更できる弾頭もある。
5　トーポリMの移動型。新しいカモフラージュ。
6　RS-24という新型名で08年11月26日に試射成功。推定4MIRV×3。2010年7月19日にポポフキン国防省第1次官が初配備されたと発表した。
7　搭載原潜は、デルタⅢ級4隻、デルタⅣ級6隻。核ミサイルを搭載しないが、タイフーン級3隻も残っており、発射テストに使われている。
8　デルタⅢ級戦略原潜4隻に搭載。4隻×16発射管×3MIRV。2009年10月6、7日に発射テスト。
9　デルタⅣ級戦略原潜2隻に搭載。2隻×16発射管×4MIRV。
10　デルタⅣ級戦略原潜4隻に搭載。4隻×16発射管×4MIRV。2009年7月13、14日、11月1日に発射テスト。10MIRVの能力があるとの情報もある。
11　6MIRVと推定される。08年9月、潜水発射に成功。しかし、09年は、7月15日、12月9日の2回発射テストに失敗し、計画は遅れている。新型のボレイ型原潜搭載予定。
12　ベアH6(Tu-95MS6)31機、ベアH16（Tu-95MS16)31機、ブラックジャック(Tu-160)13機に搭載。ベアH6は1機あたりAS15Aまたは核爆弾を6個(計186個)、ベアH16は1機あたりAS15Aまたは核爆弾を16個(計496個)、ブラックジャックはAS15BまたはAS16、または核爆弾を12個(計156個)搭載する。
13　ゴーゴン・ミサイルはABM任務からはずされた。
14　バックファイヤー(Tu-22M)、フェンサー(Su-24)、フルバック(Su-34)に搭載。

ヨーロッパ配備の米核爆弾　2010年2月

国名	基地	搭載機(所属国)	核爆弾の数 米国分担	核爆弾の数 受入国分担	計
ベルギー	クライネ・ブローゲル	F-16(ベルギー)	0	10～20	10～20
ドイツ	ビュヒェル	PA-200(独)※	0	10～20	10～20
イタリア	アビアノ	F-16C/D(米)	50	0	50
	ゲディ・トーレ	PA-200(伊)※	0	20～40	20～40
オランダ	フォルケル	F-16(蘭)	0	10～20	10～20
トルコ	インジルリク	F-16C/D(米)	50	0	50
合計			100	50～140	150～200

(表注)※PA-200　は、米独伊共同開発の戦闘爆撃機で、「トルネード」と通称される。

出典:「ニュークリア・ノートブック」(『ブレティン・オブ・ジ・アトミック・サイエンティスツ』に連載)を基本にしながら、S・ノリス(天然資源保護評議会(NRDC、米国))、H・クリステンセン(全米科学者連盟(FAS、米国))、パベル・ポドビック(ロシア戦略核戦力プロジェクト、ロシア)、米、英政府の備蓄核兵器に関する発表資料、米国防総省「中国軍事力年次報告(2010年版)、米国議会調査局の中国海軍報告書を参考にして作成。

NPT 加盟核保有国の核弾頭数　2010年7月

弾頭の分類			米	ロ	英	仏	中	合計
作戦配備	戦略核	ICBM/IRBM	500	1,090	0	0	125	1,715
		SLBM	1,152	576	144	240	0	2,112
		爆撃機搭載核兵器	316	838	0	50	55	1,259
		小　計	1,968	2,500	144	290	180	5,082
	非戦略核	ABM/SAM	0	698	0	0	0	698
		空軍航空機用	400	650	0	0	0	1,050
		海軍用	100	700	0	10	0	810
		小　計	500	2,048	0	10	0	2,558
	兵站予備		150	200	16	-	65	431
	合　計		2,618	4,750	160	300	245	8,073
作戦外貯蔵			5,980～6,980注1	7,250	65	-	-	13,295～14,295
総　計			8,600～9,600	12,000	225	300	245	21,370～22,370

注　1. 予備貯蔵2,450、退役弾頭3,500～4,500。